

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 11 日現在

機関番号：44518

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24501232

研究課題名(和文)ICTを活用した「子育て支援」に関する保育力を育成する学習環境の開発

研究課題名(英文)Development of Learning Environment to nurture competency for family support and childcare

研究代表者

金城 洋子(KINJO, YOKO)

園田学園女子大学短期大学部・幼児教育学科・准教授

研究者番号：20225121

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、保育者養成校において、「子育て支援」に関する保育力を育む学習環境を構築するため、A.「幼児期の教育における相談」を目指した教育プログラムの開発、B.「WEB教材の開発」、C.近畿地区子育て支援センターにおけるWEB分析調査、D.「保護者の「子育て支援」に関する実態調査」を実施した。ベテラン保育者にヒアリングをし、保護者交流型ワークショップで保育者に求められる力量を導き出すこと、B子育て支援センターが提要する情報分析、D保護者の声を拾い上げているサイト分析調査を行った。これらの知見をもとにA教育プログラム開発、B教材開発に活かした。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to make learning environment to nurture competency for family support and childcare through the analysis of rural center of family support's web site, and BIG data of BBC Benesse's WOMENSsite as mother's community site. Utilizing those analysis, the authors developed new learning program and learning contents.. The authors developed and assessed learning program and video productions for a teacher training program in the field of Childcare and Family Development. The video titles are 1) Feeling empathy for parents who are expecting, 2) Establishing the rules of group living in kindergarten, 3) Promoting mother-infant separation, 4) Learning daily habits in kindergarten, 5) Summary: Advice for sharing the joy of childhood development with parents.

研究分野：保育

キーワード：子育て支援 保育者の力量 保育者養成課程教育 動画教材

1. 研究開始当初の背景

核家族化や地域での交流が減少し、子育てに関して不安や悩みを抱える保護者が増えたことから、養育力の低下や児童虐待の増加が指摘され、問題視されている[1]。こうした背景から、H20年度の幼稚園教育要領ならびに保育所指針において、保育所や幼稚園に通う子供の保護者に対する支援、および地域における地域の「子育て支援」が告示され、「子育て支援」が保育者（保育士、幼稚園教諭を含む）の業務として明記されるようになった[2]。

保育者には「子育て支援」に関する力量を育成し、保育の資質を向上させることが求められ、保育者養成課程においても、H23年度より「保育相談支援」が新たな科目として設けられ、「保護者に対する保育に関する指導」を具体的に学ぶことが求められている。保育者養成校では、「子育て支援」の事例や、教育プログラムに関する情報の必要性が高まっている現状がある。

しかし、H20年以前は「子育て支援」に関する力量が幼稚園教育要領や保育指針で求められていなかったため、現在でも幼稚園・保育実習において「子育て支援」に関する取り組みを積極的に導入するケースが少ない。そのため、学習者が「子育て支援」に関して学ぶ環境が十分に提供されていない現状がある。加えて、「子育て支援」の導入される以前においても、保護者とのやり取りに関しては苦勞をする実習生が多いという指摘もある[3]。こうしたことから、保育者養成校において保護者と関わる「子育て支援」における学習環境の開発は急務であると言える。

2. 研究の目的

本研究では、保育者養成校において、Authentic Learning の概念を重視し、実際に保護者と関わることをできる場を学習の中に取り入れ、ICTを活用した「子育て支援」に関する保育力を育成する学習環境を開発する。ここでのICT活用は、保育者養成の学習環境におけるICT活用、子育て支援におけるICT活用の2つの用途を指す。では、子育て相談や保護者同士の交流の場を設ける際の、傾聴力や振る舞いについて学ぶことができるWEB教材を取り入れた学習環境の開発にICTを活かす。では、昨今保護者が子育てにWEBを活用する現状があるため、子育て支援におけるICT活用の現状分析や可能性を検討し、保育者養成課程における教材開発を活かすことである。具体的には、保育者養成の学習環境におけるICT活用に関して、「A.子育て支援の文脈に基づいた「傾聴力・発信力」を育成するための教育プログラムの構成要件を明らかにする」。また「B.保護者同士の交流・親子参加型ワークショップ運営に必要な知識やスキルを明らかにする」。以上のことから、教育相談に関する保育力育成を促す教育プログラムとWEB教材

を開発する。

子育てに関する教育相談では、保護者との信頼関係を築くことや保護者が相談しやすい雰囲気をつくることがポイントとなる[4]。そのため、保育者には保護者の話を聞く「傾聴力」を培うことが求められる。また子育ての悩みに関して保育士としての専門的な知見を活かした対応を保護者は求めているため[4]、保育士は、専門的知識を活用し保護者が抱える状況に応じ、分かり易く伝える「発信力」も求められる。そこで「A」では、未就園児をもつ保護者を対象として保護者交流型の「子育て支援」ワークショップを企画・運営に求められる知識やスキルを明らかにする。学生が保育者と連携し、保護者と交流する機会を設け、保護者の子育て観を共有すること、保護者と信頼関係を築くための手立てについて考える場を提供することから、これらのスキルや知識を抽出し、その育成を目指した教育プログラムを開発する。「B」では、ケア学、カウンセリング学、保育相談の対応事例を参考とし、子育て支援の文脈に基づいた「傾聴力・発信力」を育成するためのトレーニングプログラムの構成要件を明らかにし、WEB教材を開発する。

また、子育て支援におけるICT活用に関して、「C:近畿地区の子育て支援センターにおけるWEB分析」をし、「D:ICT利用を含めた保護者の「子育て支援」に関する実態調査」による調査結果を行う。C、Dの調査を通じて、保護者の「子育て支援」におけるニーズやそこでのICTの活用に関する情報を把握することで、学生が地域の子育て支援センター、保護者のニーズを具体的に踏まえた上で、保護者理解を促すための保育者志望学生に対する教育プログラムを活かす。

3. 研究の方法

本研究では、前述した2つの研究課題を達成することで研究の目的を明らかにし、保育者養成校においてICTを活用した「子育て支援」に関する保育力を育成する学習環境を開発する。「傾聴力・発信力」の育成、「保護者同士の交流・親子参加型ワークショップ企画運営力の育成をすることで、A.「幼児期の教育における相談」に関する保育者の力量形成を目指した教育プログラムの開発」とB.「WEB教材の開発」を行う。また、「C.近畿地区子育て支援センターにおけるWEB分析」「D. ICT利用を含めた保護者の「子育て支援」に関する実態調査」により、ICTを活用した子育て支援の情報提供に関するガイドラインを開発する。各研究課題は相互に関連しあい、順序立てて進める。先行研究の整理、教育実践における参与観察、学生へのインタビュー、アンケート調査をもとにデータを収集することから、教育プログラム、WEB教材を開発する。

4. 研究成果

A. 「幼児期の教育における相談」に関する保育者の力量形成を目指した教育プログラムの開発」と B. 「WEB 教材の開発」を行う。また、「C. 近畿地区子育て支援センターにおける WEB 分析, 訪問調査」, 「D. ICT 利用を含めた保護者の「子育て支援」に関する実態調査」を実施した。各項目に関する研究成果を以下に記す。

A. 「幼児期の教育における相談」に関する保育者の力量形成を目指した教育プログラムの開発」

プログラムの開発にあたり、ベテラン保育者に対してヒアリングを行った結果、保護者交流型ワークショップで求められる知識やスキルを抽出し、保育者に求められる力量を導き出した。結果として、「保護者や幼児の反応を察知し、活動に反映させる即興的な判断」、「保護者の意見をくみ取ったプログラムの再構築」等の知識やスキルが抽出された。この結果は、教材開発ならびに教育プログラム開発に活かした。

プログラムを受けた保育者を志望する学生は実際に保護者を招いた子育て支援のワークショップを企画、運営を行った。

「子育て支援」の教育プログラムを受けた平成 25 年度の卒業生に対して、追跡調査としてアンケート調査を行った。保育の現場で教育プログラムがどう生かされているのかを形式的に評価し、教育プログラムならびに教材開発に活用した。

B. 「WEB 教材の開発」

保育者養成校での教育実践に利用するため、「子育て支援のための動画教材」を開発した。「保護者の状況を把握し思いを受け止めよう」、「集団生活のルールを身につけるために」、「母子分離を促すために」、「生活習慣を確立するために」、「まとめ：子供の成長の喜びを保護者と共有するためのアドバイス」のタイトルの映像を制作した。

またこれらの動画を授業実践において活用し、子育て支援に関する力量形成にどう影響を及ぼしたのかを評価した。具体的には実習に参加したのちにどういった効果があったのか、またこの授業を受け保育園、幼稚園に就職をした新任の保育者、幼稚園教諭に対して、教材に対してアンケート調査を実施した。調査の結果、「保護者になった時に役立つと思う」、「子育て支援を実践してみようと考えている」学生が多く、とりわけ「保護者の気持ちを受け止める」、「地域の子育て支援の資源を積極的に活用する」などの項目において有意差が見られた。

C. 「近畿地区子育て支援センターにおける WEB 分析, 訪問調査」

近畿地区の子育て支援センターの WEB を分析し、地域の子育て家庭の要望や特徴を理解し、保育者の「子育て支援」に活かす環境を

構築するため、大阪・京都・兵庫の子育て支援センターで提供している WEB ページで提供している情報に関して分析を行った。分析の結果、「地域の子育て支援」や「NPO のイベント」に関する情報提供等が中心に提供されていることが示され、子育て支援センターの役割や提供情報に関して教育プログラムに埋め込んだ。

D. 「ICT 利用を含めた保護者の「子育て支援」に関する実態調査」

Benesse が運営するウィメンズサイトにおける電子掲示板に寄せられている保護者からの子育て支援に関する相談情報を収集した。

電子掲示板に書き込まれた保護者の相談内容であるテキストデータを対象に、単語の共起の程度に基づいた分類を試みた。分類にはネットワーク分析におけるコミュニティ概念を利用し、焼きなまし法によって非連結成分ごとに、各単語が属するコミュニティを同定した。その結果、連結成分やコミュニティごとに、ある程度意味的なまとまりを見いだせることが確認できた。その結果をウェブ教材やプログラムの開発に活かした。

<引用文献>

- [1] 全国保育士養成協議会 (2011) 「子育て支援に関わる教科目の意義と授業実践」『平成 23 年度全国保育士養成セミナー, 全国保育士養成協議会第 50 回研究大会』77 頁
- [2] 文部科学省 (2008) 『幼稚園教育要領解説』, 厚生労働省 (2008) 『保育所保育指針解説書』
- [3] 磯貝友恵他 (2011) 「実習生の悩みに関する研究 (6)」『第 64 回保育学会発表要旨集』376 頁
- [4] 川瀬弘樹他 (2011) 「子育て支援における相談内容の分析」『全国保育士養成協議会第 50 回研究大会研究発表論文集』454 - 455 頁

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

{ 雑誌論文 } (計 0 件)

{ 学会発表 } (計 7 件)

金城洋子, 岩崎千晶, 堀田博史, 松河秀哉, 久保田賢一 (2012) 幼稚園教育実習における「子育て支援」の取り組み分析 共著 日本教育工学会第 28 回全国大会論考集 pp.949-950.

岩崎千晶, 金城洋子, 堀田博史, 松河秀哉, 久保田賢一 (2012) 幼稚園教育実習における「子育て支援」の活動分析と実習生の学びに関する考察 学術雑誌 共著 日本教育

工学会研究報告集 JSET12(5) pp.185-190
岩崎千晶, 金城洋子, 堀田博史, 松河秀哉
(2013)子育て支援に取り組む保育者に求められる力量に関する一考察 学術雑誌
共著 日本保育学会第66回大会発表論文集
p.389.
松河秀哉, 金城洋子, 岩崎千晶, 堀田博史,
久保田賢一(2013)テキストマイニングを用いた保護者の不安と子どもの年齢の関
係の分析 学術雑誌 共著 第29回日本教育
工学会全国大会講演論文集 pp.337-338.
金城洋子, 岩崎千晶, 堀田博史, 松河秀哉
(2014)子育て支援に関する保育力を育む
動画教材の開発 学術雑誌 共著 日本保育
学会第67回大会発表論文集 p.677.
IWASAKI, Chiaki, KINJO, Yoko, HOTTA,
Hiroshi, MATSUKAWA, Hideya, KUBOTA,
Kenichi(2014)Development and
Assessment of Video Production for
Teacher Training Program in the field of
Child-care and Family Development
Parenting-Building Partnership with
Family 学術雑誌 共著 Pacific Early
Childhood Education Research
Association PECELA2014 B4.002
松河秀哉, 新居住子, 岩崎千晶, 金城洋子,
堀田博史(2014)ネットワーク分析におけ
るコミュニティの概念を用いたメッセ
ージの概要把握 学術雑誌 共著 第30回日本
教育工学会全国大会講演論文集
pp.529-530.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
開発した教材の一部の URL
<http://www.sonoda-u.ac.jp/private/k2201>

8/

6. 研究組織

(1)研究代表者

金城 洋子 (KINJO YOKO)
園田学園女子大学短期大学部・幼児教育学
科・准教授
研究者番号：20225121

(2)研究分担者

岩崎 千晶 (IWASAKI CHIAKI)
関西大学・教育推進部・准教授
研究者番号：80554138
堀田 博史 (HOTTA HIROSHI)
園田学園女子大学・健康科学部・教授
研究者番号：60300349
松河 秀哉 (MATSUKAWA HIDEYA)
大阪大学・全学教育推進機構・助教
研究者番号：50379111
久保田 賢一 (KUBOTA KENICHI)
関西大学・総合情報学部・教授
研究者番号：80268325

(3)連携研究者

()

研究者番号：